

⑨ Integrated System for Protein Information Processing

H.Tanaka(ICOT,日本)

発表要旨

莫大なデータの知識化要求の高まる分子生物学における、知識抽出へ向けた環境作りとしての統合的なデータベースの作成、その動向とICOTにおける開発について述べた。

特にタンパク質情報処理に範囲を絞った場合のデータベース管理システム、データベースシステム、知識表現言語の要求項目を指摘し、統合知識ベースの必要性について考察し、ICOTの成果である、並列非正規関係データベース管理システムKappa-P、知識表現言語Quixoteから構成される統合知識ベースシステムの有用性の検証を行ったことを報告した。

さらに応用例から見たKappa-P,Quixoteそれぞれの機能および性能の評価報告を、モチーフ検索の並列処理、教科書的な生化学知識の表現、実験による知識の蓄積過程の表現、等について行った。

質疑応答

なし